

令和5年度からの変更について

新年度のPTA実行委員会で、更に検討したことがありますので、御報告いたします。

1 令和5年度からPTAだより「さくらっこ」の発行回数・構成が変わります。

→年間2回発行、4ページ構成、カラーページを含む

〈理由〉

- ①学校の様子は、学級だよりや学年だより、学校だよりで随時お知らせしており、「さくらっこ」の掲載内容と重なる部分が多いです。
- ②個人情報保護のため、全校に配布するものには児童の写真や名前を掲載してほしくないという要望があり、掲載できる児童が限られてきます。
- ③今後、益々印刷費の高騰が予想されますので経費を軽減しておきたいです。

2 PTA会費を月100円引き下げます。

〈理由〉

コロナ禍のため、昨年度までは感染症予防のための物品購入が多かったのですが、コロナが2類から5類になるため、購入する物品が減ります。また「さくらっこ」の発行回数等が減りますから、引き下げ可能です。

3 4年生～6年生に9月からAI型ドリルを導入します。

〈理由〉

- ・令和4年度の保護者アンケートで「iPadを持ち帰って家庭学習に使うことに賛成である」という項目について肯定的な回答が全体の89%でした。全国的にもタブレットを持ち帰って家庭学習に活用している学校は増えています。しかし今、iPadを持ち帰ってもドリルが入っていないため十分な学習はできません。
- ・学習に苦手意識を抱いている児童が多いため、「分かる」「できる」という気持ちをもたせて、学習意欲の向上を図りたいです。
- ・学校は「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現を目指さなければなりません。「協働的な学び」はできていますが、一律に同じプリントやドリルをやっているだけでは、必ずしも「個別最適な学び」には至っていません。「個別最適な学び」をするための手段が必要です。(多くの学校がすでにAI型ドリルを導入済みです。)
- ・1日のうち大半の時間を宿題等の丸付けに費やしている教員の時間を、児童に関わる時間にしたいです。(業務改善)
- ・家庭学習の際に勉強を教えるという保護者の方の負担軽減になります。

これまで、学校連絡委員会やPTA実行委員会でAI型ドリル導入について保護者の方や地域の方に御意見を伺ってきました。その際に挙げられた質問が以下の内容です。

Q①：書く力がつかないのではないか。

A①：AI型ドリルの方が優れている教科は紙ドリルをなくします。しかし、紙ドリルが一気に全てなくなるわけではありません。AI型ドリルと紙ドリルのメリット・デメリットを見極めながら考えます。また、筆圧に注意しながら書くことを重要視する、1年生から3年生には導入しません。

Q②：個人差が広がらないか。

A②：理解できることが増える分、一人一人の学力向上につながります。

Q③：タッチペンは購入するのか。

A③：4年生から6年生は、学校の研究費でタッチペン（1本300円程度）を購入し、個人持ちとします。しかし破損等、使用できなくなった際は、御家庭での購入をお願いします。

Q④：iPadを破損したときの修理はどうしたらいいか。

A④：通常使用で破損した場合、修理費を請求しないということもあります。従って、破損の際は必ず申し出てください。町教育委員会と相談させていただきます。ただし、明らかに故意による破損の場合は、修理費を負担いただくことになると思います。

※本校が導入を考えているAI型ドリル(キュピナ)の御説明はPTA総会前にさせていただきます。裏面も御覧ください。
※保護者の方にAI型ドリル(キュピナ)を知っていただくために、4年生から6年生には本日iPadを持ち帰ってもらいます。お子様と一緒に家で試してください。(ただし、お試し版ですからすべての機能が使えるわけではありません。また、同一ログインIDで複数人が使用できることを御承知おきください。)